vol.296

# 三宅に祀られる住吉さん

西田 孝司（松原市文化財保護審議会）

▲土井川の暗渠化工事（昭和50～53年）奥（東）後方に祠と柳が見える。西から。（松原市三宅町土地改良区 提供）

▲住吉さん西側を流れる土井川　昭和50年以前。西から。

▲祠内の住吉三神　毎年正月と8月1日、西馬場町会でお祀りされる。（西馬場町会 撮影協力）

▲住吉さん（三宅中5丁目）柳が祠前に植えられている。

## 土井川沿いに祀られる夏越大祓 堺の住吉神社とよばれた住吉大社

三宅中五丁目の玉應寺（真宗大谷派）の西方すぐのところに、創建不詳ですが、「住吉さん」とよばれている祠が祀られています。「住吉大社」と書かれた額を掲げた正面には、柳の古木が建物に寄りかかるように植えられています。

三宅には、氏神として菅原道真を祭神とする屯倉神社が鎮座し、また、延喜式内社の酒屋神社（明治四十年に屯倉神社に合祀）も祀られていました。江戸時代の丹北郡三宅村の文書や絵図類には、「住吉さん」を示す資料は見られません。ただ、天美東三丁目につくられたセブンパーク天美との境界にあたる三宅西六丁目に「住吉田」の小字名が残っています。大阪市住吉区にある摂津国一宮の住吉大社にお供えする米をつくる田が耕やかされていたとも思われ、古くから住吉大社との関わりも想定されます。

「住吉さん」は、所在する西馬場町会の方々によってお世話され、「堺の住吉さん」から、神様をお迎えしたと伝えられています。柳の木も、「地域のご家庭で子供が生まれたので、祠前に柳を植えたと聞いている」と教えられました。

「住吉さん」では、今から六十年ほど前までは、毎年八月一日に「おわらい」とよぶお祭りを行っていました。この日は農作業も休み、屯倉神社から大太鼓を借りて打ち鳴らし、夜店も出てにぎわったのです。

では、「堺の住吉さん」とはどういう意味でしょうか。大阪の人なら誰しも参拝する住吉区の住吉大社は、住吉大神（底筒男命・中筒男命・表筒男命）と、三神を住吉の地に祀った神功皇后を祭神としています。しかし、大阪市域の住吉大社ですが、明治時代までは「堺の住吉神社」ともよばれ、堺とつながりが深かったのです。住吉大社境内には、堺の漁師や魚商人たちが寄進した石灯籠が建ち並んでいます。

堺市堺区宿院町東のフェニックス通り沿いに、住吉大社の宿院頓宮が祀られています。頓宮は住吉大社の御旅所で、堺は住吉大社の神領でした。住吉大社では、清浄を尊び国家の行事として大祓を古来より行い、六月の大祓を夏越の大祓といい、夏祭として伝承してきました。古くは南祭とも言い、「おはらい」とよばれる住吉祭が行われました。明治時代以降は新暦七月三十一日に夏越大祓とよんで、本社社頭で「芽の輪くぐり」の神事が挙行されます。翌八月一日には、宿院頓宮に向けた神輿の神幸もあり、現在に至っています。宿院頓宮に近い同区大浜では鎌倉時代からの伝統を受け継ぎ、七月三十一日に大浜大魚夜市が開かれます。これは、住吉大社から宿院頓宮に渡ってきた神輿に堺の漁師らが魚を奉納し、余った魚を人々に分けたのが始まりと伝えられているほどです。

三宅の「住吉さん」は、堺の人々にとっての崇敬神社である住吉大社から、住民の幸せを願って分祀されました。祭りを「おわらい」と称する由来は、本社の夏越の「おはらい」を受け継ぎ、八月一日の祭礼もそれにあわせているからでしょう。もっとも、松原市域は、江戸時代以降、近鉄電車が大阪の阿部野橋駅と結ばれた大正時代後半までは、竹内街道や長尾街道によって堺と結ばれ、生活圏や商圏は堺との行き来が一般的でした。「堺からの神様」と考えられたのも、こうした背景があったと思われます。

もともと、屯倉神社西鳥居から西に延びる道は、三宅でも最も広く、「住吉さん」に至る道路北側に沿って、石橋を架けた土井川が流れていました。幅二メートルほどの小川でしたが、祠を経て、今の府道大堀堺線と国道三〇九号線北西側沿いにあった新池（昭和四十五・平成十六年潰廃）に注いでいました。同地は土井先とか馬場先とよばれ、祠までは昭和四十年ごろには暗渠になり、祠以西も五十年代初頭に公園化されました。

ちなみに、堺の旧市街地は、中世・近世以来、環濠で囲まれ、のち土居川とよばれました。川沿いには柳の木が植えられ、土居川の大半は埋められましたが、柳は「堺市民の木」として制定されています。偶然とはいえ、同名の三宅の清らかな土井川のほとりに建てられた「住吉さん」に柳が植えられたのも、堺の土居川にあやかったからでしょうか。

祠は土井川が暗渠化される前に、今のように再建されましたが、もともとの馬場地区の世話人の名も祠側面に刻まれ、歴史を伝えています。